

作品	住所	氏名	選者賞
城山に神宿らむか千体のミニかまくらに灯の点りたる	秋田県横手市	下村 清	選者賞
お揃いのスリッパなれど一ヵ月主の形になりて拒めり	兵庫県たつの市	観田 幸美	秀逸
末っ子の仕事辞めるの一言に鍋の煮詰まる音だけ響く	神戸市須磨区	田代 尚子	秀逸
スーパーに両目隠して売られをり地球の裂け目を見てきた鱧	広島県東広島市	伊藤 美枝子	秀逸
裏側と底は同時に見られないコーヒーカップと人の関係	横浜市鶴見区	杉山 太郎	○
人触る部分のみスルク光りいる真鍮のノブよかなしみに似て	山口県光市	瀬戸内 光	○
梅花藻の揺れたる壺を眺むれば青き芽も見ゆ水ぬるみ来て	埼玉県朝霞市	金澤 隆男	○
東尋坊見下ろし立てば我が体ひとつの岬となりて風受く	福井県敦賀市	大和田 康夫	○
図書館の貸出し期間二週間なんにでもある返却の日は	神戸市垂水区	西塚 洋子	○
冬の使者しづかに待ちある円錐の雪吊りはいま星空の下	青森県八戸市	木立 徹	○
語気荒く独りごつ吾の?を打ちカーテン大きく風にふくらむ	大阪府岸和田市	佐々木 佳容子	○
ぎつしりと書かれた文字より残された余白の部分が多くを語る	香川県善通寺市	森本 義臣	○
四月より金管バンドに入りたい児の一言に青い風吹く	長野県山形村	上條 ひろ子	○
精根をそそぎ介護の母逝きてこの頃われは臍抜けとなりぬ	福井県敦賀市	一島 保子	○
掲示さるるガソリンの値と「まあ同じ」今朝の血圧安定しおり	福井市	堀内 恵子	○
吹く風にしばし傾く滝よりの寒九の水を袖濡らし汲む	和歌山市	谷口 静香	○
椎茸の駒打つ山に尉鷄(じょうびたき)我の廻(めぐ)りを一日飛び交う	大分県竹田市	佐藤 政俊	○
樹下よりの光に仰ぐ空に咲く桜は夜に色を増しけり	宮崎市	鋤田 知子	○
人を待つしばらくの間をただ蜘蛛の美しき罟架けるを見ていつ	広島県尾道市	花田 智佳子	○
艶やかな苺に?えるマスカット季(とき)の薄らぐ如月の尽	福井県越前市	永田 きみ子	○
学寮の肩に満月仰ぎ見て今年最後の巡視を終へる	広島県福山市	石川 茂樹	○
鮫鱈のほのかに照らす海底を想ひてながむ夜に降る雪	東京都杉並区	嶋田 恵一	○
吹雪く朝発ちて着きたる渋谷の街人とネオンに埋もれてゆく	福井県小浜市	小堂 裕子	○
涸沢のヒュッテに無事に着きたるも家族に知らず電波届かず	福井県小浜市	岩本 和子	○
須臾にしてサンダーバードと並走す真白き蕎麦の畑を隔てて	福井県敦賀市	上坂 和枝	○
流水に海閉ざされて老漁夫はラジオ聞きつつ網を繕ふ	札幌市東区	藤林 正則	○
切干しと冬の陽射しを分けあひぬ畑の間のソーラーパネル	福岡県小郡市	竜口 和美	○
ドングリをころんと溝に蹴り込んで日に三便のバスを待つ朝	徳島県阿南市	坂東 典子	○
半時にぬくもる血流手におぼえ太極拳の演舞つづける	茨城県大子町	高梨 とし	○
浮世絵の夕立のごと太々と十九階の我に雨降る	名古屋市北区	植田 和子	○
情熱の日々を湛えて静まりぬガラスケースに晶子の湯呑み	京都府舞鶴市	藤原 里実	○
窯変のただ中にあり職退きし夫と暮らせば知らざりし顔	岡山県和気町	高原 晴子	○
若きらが肩寄せ行き交ふ春の街はるかなる日の二人を探す	名古屋市天白区	三好 ゆふ	○
なんとなく引かれ来し神田神保町《榊莫山・禪の書》に会う	熊本市中央区	本多 和代	○
マカロンを寡黙なままにポンと置く相も変わらぬ夫のホワイトデー	名古屋市北区	斉藤 鈴子	○
店員をとときには客を叱りだすオヤジのラーメンだしはとび魚	兵庫県新温泉町	西村 徹	○
御堂前の蓮の花に屈まれば監視カメラが向きて光りぬ	熊本市西区	岸 和子	○
フェルメールの少女のターバンを秋風がほどいたような紺碧の空	兵庫県高砂市	鈴木 裕子	○

第23回与謝野晶子短歌文学賞
第20回山川登美子記念短歌大会

坂道はさやさやさやと笹さやかサンダル履きできみに追いつく
更新の臙脂あざやかなパスポートわれにまだある十年の余白
半白の髪ざらざらと哀しくてアフリカ産とふオイル撫でつく
みちのくで馬にかしわに酒ワインやかましき君なしには酔えず
日米の首脳のハグを見て猫はバーバーチェアで一つあくびす

入選作品 篠弘選

大阪府河内長野市
京都市右京区
千葉県市原市
東京都中央区
浜松市北区

寺田 愛子
高橋 よし子
野原 東子
水口 海
高田 圭

○
○
○
○
○

作品	住所	氏名	選者賞
似てるでと言われて以来気にかかるどこがと思うが吉祥天	大阪市天王寺区	丸山 雅美	選者賞
不注意につけたる床の小さき傷掃除するたび黒ずみ増しゆく	兵庫県たつの市	観田 幸美	秀逸
園児らの蛙の絵のなか真黒に塗りつぶされたる一匹のをり	福井県小浜市	竹村 祐美子	秀逸
後瀬山小浜の町の大雪に登美子の墓も埋もれゆくかな	福井県敦賀市	磯辺 隆	秀逸
本棚の六法全書の空間に単身赴任の夫を偲びぬ	兵庫県姫路市	富田 昌代	○
角砂糖 紅茶の中に崩れゆきほとほと溶けるごとく恋せり	兵庫県洲本市	大村 博子	○
それぞれに共通点などないと言う百歳超えた二人の会話	仙台市泉区	佐々木 裕子	○
待ちあわせは今も紀伊國屋前らしいあの日の我が君探してる	大阪府羽曳野市	西村 真千子	○
あなたとの力関係に分のなくて何時ものところで待たされている	東京都中野区	武藤 昭彦	○
老いらくの妻への愛は母思う愛と重なり孝行となる	三重県亀山市	岩谷 隆司	○
離乳食のレシピが母から届きたるわたしを育てた色があふれる	堺市中区	前田 佳子	○
抱かれたくないかもしれぬ兎抱く動物園の小さな囲い	神戸市垂水区	西塚 洋子	○
道ならぬ切なき恋もあることを人工知能は知るのだろうか	福井県小浜市	古谷 智子	○
腹立ちにまかせて脱ぎたるスリッパを揃えてくれし母に吾もなる	大阪府岸和田市	佐々木 佳容子	○
魚偏に弱いは鯛(いわし)、人偏に弱の字あらば僕だと子の言ふ	福井県小浜市	竹村 祐美子	○
筆筒より出したる手編みのセーターがふふと伸びをす春の陽のなか	福井県鯖江市	中橋 睦美	○
「ウエディングドレスのような白」と言う彼女はきっと恋をしている	兵庫県川西市	木内 美由紀	○
尾根道のきみのザックに散りかかる桜の花びらわが手に受くる	山梨県甲斐市	後藤 榮子	○
沈黙を破るか否か小刻みに揺れている君の右足に問う	兵庫県姫路市	吉永 明代	○
お賽銭を洗ひ清めて持つ夫と産土さまへ初詣でなす	長野県宮田村	河井 房子	○
ああ切った蛙の解剖失敗し立ち往生の夢から覚める	福島市	児玉 正敏	○
鶴首が鶴の首より細ければ責めつつ飲ます水仙一本	金沢市	前川 久宜	○
人を待つしばらくの間をただ蜘蛛の美しき罫架けるを見ていつ	広島県尾道市	花田 智佳子	○
手袋の中でグーしてひたすらに薄き我が影踏みしめていく	札幌市東区	鈴木 順子	○
日本のいくつもあると言ふ臍の一つに春の闇の迫り来	福井県小浜市	信谷 冬木	○
恋人の明日の予定も知らぬのに宇宙の未来思案する君	茨城県つくば市	片山 純子	○
白百合のにはほひて剪るをためらふか夕つ日を背に君の佇む	埼玉県川越市	大塚 雅子	○
十二にん子を生み五万首詠みしとふ等身大の晶子像ちさき	大阪府羽曳野市	岡林 満子	○
雷をこわがる犬を抱きしめる抱きしめられることなき吾は	京都府舞鶴市	神谷 由美子	○
在校生のトランペットのその口に曲つて映る別れの楽譜	名古屋市昭和区	清水 良郎	○
それぞれのミッションを終えて青を待つ人らに夕日はあまねく当たる	山形県酒田市	村上 秀夫	○
いつれ散る桜のやうな恋なれど今朝も確かむ蕾の色を	京都府舞鶴市	藤原 里実	○
先生の宇宙を語る意気込みに白墨折れて飛んでゆきたり	岡山県吉備中央町	難波 良子	○
だうしてもあちらに行かうとひつぱりぬ今朝の柴犬むかしのあなた	大阪市西区	古室 じゅん	○
朝夢を覗き見したか悪戯を見透かすやうな妻がまなざし	東京都江戸川区	高杉 華春	○
返信の携帯電話に降ろされし無人の駅はさくら菜の花	千葉市中央区	安井 三緒	○
窓ガラスの一まい二まいと空磨く今ごろ姉は手術のさ中	大阪府茨木市	吉田 美子	○
春雪は秘めたる樹形の結晶を見せずに消えて地に帰り行く	福井県小浜市	古谷 義次	○

第23回与謝野晶子短歌文学賞
第20回山川登美子記念短歌大会

入選作品 伊藤一彦選

さよならを告げずに逝った貴女から教えられたり生死の潮目
医師に聴きし母のこれからを伝うとき敬語になりたり電話の父は
実家では枕にひかり染み込んでわたしのいない春に慣れゆく
君の読む本の葉になりたいな君の心を読み取りたいから
11.2キロのぬくいかたまりが「おかあさん」と全力でくる
戦場へ駆り出されれば大人だと少年兵は静かに語る

奈良県生駒市
東京都墨田区
兵庫県明石市
大阪府茨木市
宮崎市
大分市

島本 郁子
佐藤 佳子
森永 理恵
岡本 陽子
長田 梨遠
金澤 諒和

○
○
○
○
○
○

作品	住所	氏名	選者賞
愛しいはかなしいとも読む窓の外見たまま国語の教師は言えり	兵庫県尼崎市	谷岡 美樹	選者賞
フグ一切れひと焙りすれば「もう一本」と笑む声のする一人の夕餉	岐阜市	川出 香世子	秀逸
髪型を変えた。メイクも変えてみた。恋が終わるってちょっと楽しい	仙台市青葉区	浅井 麻結	秀逸
テニス部の君のボールが転がってくるから我はレフトを守る	大阪市北区	中井 スピカ	秀逸
三十度の急傾斜下るケーブルカーに三十七度の沙羅ちゃん思う	京都市山科区	後藤 正樹	○
裏側と底は同時に見られないコーヒーカップと人の関係	横浜市鶴見区	杉山 太郎	○
鏡よ鏡映せば一番美しい吾かも知れず君想うとき	兵庫県南あわじ市	山田 恵子	○
北風を春風にして畑中で農家の主婦が立ち話する	松山市	園部 淳	○
小さき手で虹を指さす幼子とうなずく母と夢を見上げる	群馬県邑楽町	小倉 太郎	○
カーボンの足しなやかに躍動し義足走者が観衆をのむ	栃木県さくら市	青木 一夫	○
東尋坊見下ろし立てば我が体ひとつの岬となりて風受く	福井県敦賀市	大和田 康夫	○
「あこがれのハワイ航路」のあそこは何もなければバラ色だった	東京都中野区	武藤 昭彦	○
ネクタイの代わりにタオル首に巻き今日より我は野良の人なり	長野県伊那市	市川 光男	○
離乳食のレシピが母から届きたるわたしを育てた色があふれる	堺市中区	前田 佳子	○
暮れそうで暮れない空よまだ誰か帰ってきそうな気がして仰ぐ	水戸市	小栗 純江	○
この夜は胸がとつてもせつなくてガラスのやうな月を見てゐる	青森県八戸市	木立 徹	○
ひさびさの主婦の休日外は雪おいしすぎるぞカップラーメン	山口市	鳥野 あさぎ	○
来世もと願っているのは一人だけ失恋よりも複雑な味	埼玉県蓮田市	和氣 智子	○
キスもせず愛も誓わず指輪なしされど二児あり今日曾孫生る	島根県益田市	西島 通人	○
「ま、いいか」とつぶやくことの多くなりわが子との距離ほどよくなりぬ	和歌山市	白井 陽子	○
精根をそそぎ介護の母逝きてこの頃われは腑抜けとなりぬ	福井県敦賀市	一島 保子	○
悪と悪、正義と正義、ぶつかって地球が逆に回り始める	岡山県瀬戸内市	小橋 辰矢	○
十四歳のままの恋文 抽斗に十円切手のさくらは散らず	香川県善通寺市	子川 多栄子	○
十一（じゅういち）に別名のあり慈悲心鳥（じひしんちょう）除染のできぬ空削りたし	北海道函館市	武田 悟	○
泣きながらあと追い掛ける夢の中私は何を無くしたのだろう	兵庫県伊丹市	笠井 澄江	○
職人の技に刈られて松の木は今日の青空すんすん通す	堺市西区	平間 美幸	○
昼休み君の隣りで感じてた勇気だけでは壊せぬ壁を	大阪府東大阪市	五宝 久充	○
紐でくり捨ててきた場所もう一度振り返るロマンランさよなら	東京都稲城市	沢 菜萁	○
学寮の肩に満月仰ぎ見て今年最後の巡視を終へる	広島県福山市	石川 茂樹	○
同窓会明日香村立中学の蘇我氏藤原氏円卓かこむ	奈良県橿原市	松井 純代	○
もう一度会いたいあなたもう二度と逢えないあなた遺影のあなた	大阪府高槻市	小野 まなび	○
街中に未来の種をまきながら春めく空を鳴き渡る鳥	宮崎市	増田 満美子	○
ダム底に沈む村跡語り継ぐ夫は郵便配達長き	福井県若狭町	宮川 直美	○
だんだんと子のブランコが高くなる空へ飛ぶにはまだ早すぎる	山形県酒田市	村上 秀夫	○
時雨きてビニール傘を差しかけた、只それだけを日記に記す	徳島県阿南市	小畑 寿陽	○
さみしさはいつも時間の果てにあり帰る娘の尾灯見送る	徳島市	森本 順子	○
紅ひきて髪ととのへて香つけて昭和の女よ朽ちてはならぬ	山口県防府市	木原 樹庵	○
県境を越える列車で逢いにゆく小さな嘘を家に残して	新潟県村上市	杉江 正子	○

第23回与謝野晶子短歌文学賞
第20回山川登美子記念短歌大会

入選作品 三枝昂之選

一日を雨だれの音に刻まれて体内時計の誤差もどりゆく
返信の携帯電話に降ろされし無人の駅はさくら菜の花
お揃いのキーホルダーが愛おしい私がKであなたはNで
前を向き姿勢を正し顎を引き元気な今日を遺影に誓う
母(かあ)ちゃんの笑顔が僕は画けないよ 作り笑顔だからなんだね
戦場へ駆り出されれば大人だと少年兵は静かに語る

熊本市中央区
千葉市中央区
千葉縣市川市
徳島県小松島市
福岡市博多区
大分市

本多 和代 ○
安井 三緒 ○
竹谷 華林 ○
天王谷 一 ○
長尾 聡 ○
金澤 諒和 ○

作品	氏名	住所	選者賞
君の声は母音が澄んであたたかい胸にしまって夜に聞こうか	東京都青梅市	古賀 のり子	選者賞
鯨尺を取り出し女孫に話しをり縫物のこと曾祖母のこと	福井県小浜市	古谷 智子	秀逸
「ま、いいか」とつぶやくことの多くなりわが子との距離ほどよくなりぬ	和歌山市	白井 陽子	秀逸
つつがなく義理欠き恥かき転ばずに 卒寿をすぎて今したたかに	京都府八幡市	江川 淳子	秀逸
これからはさらに分岐が続きますあなたとわたしの図式の中で	山口県光市	瀬戸内 光	○
愛しいはかなしいとも読む窓の外見たまま国語の教師は言えり	兵庫県尼崎市	谷岡 美樹	○
紅梅のもう咲きたるに我が心まだ新しき年に馴染めず	大阪府枚方市	田中 伸子	○
歌書くに老眼鏡をまず磨くりんごの香る冬陽差す部屋	青森県六戸町	野崎 和子	○
歯の治療終へて会計待つしばし急ぎ口紅つけて装ふ	東京都府中市	広田 滯子	○
ネクタイの代わりにタオル首に巻き今日より我は野良の人なり	長野県伊那市	市川 光男	○
不注意につけたる床の小さき傷掃除するたび黒ずみ増しゆく	兵庫県たつの市	観田 幸美	○
つつがなく県営に住み老いてゆく夢も野心もあるにはあった	奈良市	大森 富士子	○
離れ住む祖父母の家へ二泊せし児はたくましくなりて帰り来	長野県山形村	上條 ひろ子	○
猿が出た猪が出た熊を見た里過疎なれど賑やかなこと	山口県萩市	齊藤 定	○
掌(て)の中の宝珠(たま)の如くに数枚の賀状見ている寡婦の正月	兵庫県尼崎市	井上 隼子	○
魚偏に弱いは鯛(いわし)、人偏に弱の字あらば僕だと子の言ふ	福井県小浜市	竹村 祐美子	○
筆筒より出したる手編みのセーターがふふと伸びをす春の陽のなか	福井県鯖江市	中橋 睦美	○
「ウエディングドレスのような白」と言う彼女はきっと恋をしている	兵庫県川西市	木内 美由紀	○
初詣での宮居に吹かるる紙屑を人込みのなかわが手が拾ふ	長野県宮田村	河井 房子	○
ボンネットに深く眠れる猫おりて車も一緒にまどろんでいる	堺市西区	平間 美幸	○
今年こそ結婚せねばと夢にみる妻子ある身をわれは忘れて	兵庫県西宮市	桜田 一夫	○
つぎつぎと上がる花火のつかの間のあはひに白く月の影浮く	福井県小浜市	松本 浩	○
赤い橋わたれば父母のすむくにへそんな気のする春の夕ぐれ	岡山県吉備中央町	河田 朝子	○
咲き残るパンジーぐいと押し退けてチューリップの芽の緑尖りぬ	名古屋市北区	遠山 敦子	○
春の陽に花差し出して水仙は雪消の庭を黄で飾りたり	山形県鶴岡市	齋藤 好夫	○
婚の日の涙おさへし白手ぶくろ四十余年を抽出しの奥	静岡県三島市	山田 弘子	○
「パンカイ」と麦茶のグラス持ち上げて宴の核の曾孫は二歳	和歌山県橋本市	赤坂 文代	○
エウロパの沃野で君と踊りたい地球の青を借景にして	千葉県大網白里市	滝沢 ゆき子	○
花菜見て「ほっとするよ」と夫の言い吾も同感と黙ってうなずく	大分県国東市	重光 寛子	○
雷をこわがる犬を抱きしめる抱きしめられることなき吾は	京都府舞鶴市	神谷 由美子	○
偏西風に乗りにて夫は帰る竹で編まれた鳥籠持って	大阪市西区	野田 圭子	○
梅ヶ枝に細き脚かけ蜜を吸ふ目白の眼閉ぢられてをり	大阪市北区	家治 綾子	○
大丈夫何とかなるさと亡き夫の声音を真似て今日も過ぎゆく	札幌市清田区	三浦 公佐子	○
ポプラとはかはゆいなまへポプラポプラ ポプラ並木に呼びつつゆけり	高松市	加藤 マスミ	○
手の平でハンカチ丸め汗をとる自己紹介の順番迫り	兵庫県加西市	伊藤 美鈴	○
ドングリをころんと溝に蹴り込んで日に三便のバスを待つ朝	徳島県阿南市	坂東 典子	○
リハビリの古い人ばかりの待合室 女雛男雛がすすきり座る	大阪府吹田市	錦織 利子	○
大事なと言ひてすつくと起き上がる小さな段差を横目で見つつ	大阪市西区	古室 じゅん	○

第23回与謝野晶子短歌文学賞
第20回山川登美子記念短歌大会

入選作品 安田純生選

鋼材の高く積まれし構内にラジオ体操の曲は止みたり
そういえば泣くのはいつもお風呂場で顔をあらって上がればおわり
生煮えのいちごの粒を口にしてこんなだったかあなたとのキス
有意義な会話をしたわと微笑んで言えちゃいそうなところがブスだよ
花はみなこちらを向いてるわけじゃないわたしのために咲くわけじゃない
戦場へ駆り出されれば大人だと少年兵は静かに語る

大阪府寝屋川市
神戸市東灘区
広島市西区
東京都町田市
川崎市宮前区
大分市

三宮 サダ子 ○
添田 尚子 ○
木野 葛紗 ○
平井 かよ子 ○
高橋 彩 ○
金澤 諒和 ○

作品	住所	氏名	選者賞
「ま、いいか」とつぶやくことの多くなりわが子との距離ほどよくなりぬ	和歌山市	白井 陽子	選者賞
魚偏に弱いは鰯(いわし)、人偏に弱の字あらば僕だと子の言ふ	福井県小浜市	竹村 祐美子	秀逸
そういえば泣くのはいつもお風呂場で顔をあらって上がればおわり	神戸市東灘区	添田 尚子	秀逸
スマホ越し日照雨のやうに声は降るわたし達には距離がいるのだ	兵庫県西脇市	大江 美典	秀逸
海しぶき蘇洞門(そとも)めぐりの遊覧船むかひの原子炉建屋(たてや)のアナウンスはなし	大阪府高槻市	原 雅子	○
待ちあわせは今も紀伊國屋前らしいあの日の我が君探してる	大阪府羽曳野市	西村 真千子	○
あなたとの力関係に分のなくて何時ものところで待たされている	東京都中野区	武藤 昭彦	○
小浜線 山川登美子を訪ぬればなまり優しき車掌に出会う	愛知県岡崎市	今泉 一夫	○
許してはくれないのですねどうしても君の横顔どンドン滲む	札幌市南区	後藤 明美	○
米磨ぎのリズムがとてもしらしい「何かあったの」君が背に問う	札幌市南区	後藤 明美	○
抱かれたくないかもしれぬ兎抱く動物園の小さな囲い	神戸市垂水区	西塚 洋子	○
大雪の積りたる庭に鶴二羽の首を出しをり赤金の鶴	福井県小浜市	大江 青流	○
涙にも強弱がある今流すうれし涙は強い涙だ	岡山県瀬戸内市	小橋 辰矢	○
掲示さるるガソリンの値と「まあ同じ」今朝の血圧安定しおり	福井市	堀内 恵子	○
「ウエディングドレスのような白」と言う彼女はきっと恋をしている	兵庫県川西市	木内 美由紀	○
母遺せし「延命不要」のメモ紙を介護ファイルの最後に綴じぬ	大阪府池田市	梅澤 義勝	○
樹下よりの光に仰ぐ空に咲く桜は夜に色を増しけり	宮崎市	鏝田 知子	○
極太の白い毛糸で編みあげたニットのような秋空の雲	大阪市天王寺区	丸山 雅美	○
息子から「雪降っとるか」とメール来ぬどこか呑気な表日本より	金沢市	杉田 順子	○
塩水と真水のちゆうかんわたくしの?を流れる涙というもの	津市	樋田 由美	○
みな眠る冷えた夜半にゆたんぽをわが子のように抱きしめている	広島県福山市	松井 典子	○
学寮の肩に満月仰ぎ見て今年最後の巡視を終へる	広島県福山市	石川 茂樹	○
つぎつぎと上がる花火のつかの間のあはひに白く月の影浮く	福井県小浜市	松本 浩	○
手袋はうつろなかたち片方がわたしを忘れるよな気がして	千葉県八千代市	清水 重男	○
おみやげと手渡されしは握られて莖やわらかくなりしタンポポ	奈良県橿原市	松井 純代	○
3・11より六年目なる寒空にぼーんぼーんと花火が上がる	福島市	松川 韶子	○
もう一度会いたいあなたもう二度と逢えないあなた遺影のあなた	大阪府高槻市	小野 まなび	○
「ご遺体」と丁寧に言ふ医大生の解剖実習いよよ近づく	大分県竹田市	井上 登志子	○
いつまでも仕舞わぬ雛に内緒事聞かせてしまう春の夜更けて	神奈川県小田原市	廣井 則江	○
母の名のかすかに残る二尺ざし角まるくなり光る飴色	千葉県富里市	大場 ヤエ	○
抱きしめて愛していると吐く僕に狡さと微かな純真さ見る	奈良県御所市	大西 綾子	○
北風に長く吹かれた髪を今日ばっさり切れば春の顔となる	京都府舞鶴市	藤原 里実	○
休耕地太陽パネルに占められて風も寂しく素通りしたり	山梨県上野原市	西川 拡里	○
太陽の塔の猫背が見下ろせる芽吹かむとする桜の並木	堺市北区	佐藤 多恵子	○
だうしてもあちらに行かうとひつぱりぬ今朝の柴犬むかしのあなた	大阪市西区	古室 じゅん	○
女将より夜又ヶ池伝説聞き終へて囲炉裏猪鍋匂ひ立ちくる	愛知県知立市	星原 風堂	○
運ばれて置かれたところが生きる場所コンクリートの裂け目にすみれ	徳島市	森本 順子	○
県境を越える列車で逢いにゆく小さな嘘を家に残して	新潟県村上市	杉江 正子	○

第23回与謝野晶子短歌文学賞
第20回山川登美子記念短歌大会

入選作品 永田和宏選

医師に聴きし母のこれからを伝うとき敬語になりたり電話の父は
知っている人たちばかりのこの街で君が自然と繋いだ右手
会いたい愛されたいの貴方だけを感じていたい今すぐに 来て
こいびとがたびびとのようにわたくしをとおりすぎました春の小嵐
道半ば媪は二度目のお辞儀して横断終えれば車列の進む

東京都墨田区
京都市上京区
静岡市駿河区
東京都品川区
群馬県渋川市

佐藤 佳子 ○
なかむら あきこ ○
たまうさぎ ○
あきすと ○
忽滑谷 三枝子 ○

作品	住所	氏名	選者賞
愛しいはかなしいとも読む窓の外見たまま国語の教師は言えり	兵庫県尼崎市	谷岡 美樹	選者賞
恋といふ危ふきものを持ちてゐる生き物の住む星の青さよ	大阪府枚方市	田中 伸子	秀逸
みちのくの椰子の木は花をつけぬゆえ絡み咲く夏ののうぜんかつら	宮城県松島町	遠山 勝雄	秀逸
ウリカエデの種のくるくる飛ぶさまを見せんと幹を揺すつてくれる	岡山県和気町	高原 晴子	秀逸
眠れない夜に手にする歌集なりなたる歌人にねむけを貰ふ	福井県小浜市	古谷 正良	○
きっとあの見逃しやりし芋虫ぞ揚羽蝶きてわれにまつわる	広島県大竹市	津村 スマ子	○
レストランに勉強会をする夕べ話が及ぶ月の所有権	京都市山科区	後藤 正樹	○
これからはさらに分岐が続きますあなたとわたしの図式の中で	山口県光市	瀬戸内 光	○
鏡よ鏡映せば一番美しい吾かも知れず君想うとき	兵庫県南あわじ市	山田 恵子	○
山開きの法螺貝の音に驚きて高木に止まる鳥の飛び立つ	埼玉県所沢市	若山 巖	○
図書館の貸出し期間二週間なんにでもある返却の日が	神戸市垂水区	西塚 洋子	○
道ならぬ切なき恋もあることを人工知能は知るのだろうか	福井県小浜市	古谷 智子	○
来世もと願っているのは一人だけ失恋よりも複雑な味	埼玉県蓮田市	和氣 智子	○
キスもせず愛も誓わず指輪なしされど二児あり今日曾孫生る	島根県益田市	西島 通人	○
「ま、いいか」とつぶやくことの多くなりわが子との距離ほどよくなりぬ	和歌山市	白井 陽子	○
カーディガン淡き一枚脱ぐように十センチ髪を切ってスタート	兵庫県姫路市	吉永 明代	○
人類は象形文字を作り出しいま絵文字にて非礼を詫びる	北海道函館市	武田 悟	○
泣きながらあと追い掛ける夢の中私は何を無くしたのだろう	兵庫県伊丹市	笠井 澄江	○
炉にならぶ小浜の焼き鯖大口に「アッ」と叫べる声をききたり	前橋市	生方 榎栄	○
息子から「雪降っとるか」とメール来ぬどこか呑気な表日本より	金沢市	杉田 順子	○
昼休み君の隣りで感じてた勇気だけでは壊せぬ壁を	大阪府東大阪市	五宝 久充	○
同窓会明日香村立中学の蘇我氏藤原氏円卓かこむ	奈良県橿原市	松井 純代	○
偏西風に乗りて夫は帰りくる竹で編まれた鳥籠持って	大阪市西区	野田 圭子	○
ドングリをころんと溝に蹴り込んで日に三便のバスを待つ朝	徳島県阿南市	坂東 典子	○
思ひ出すのは少しわたしが早かつた自慢してをり海馬とやらが	岡山県新見市	植木 泰子	○
お向かいの家建てあがり今朝からは井戸を掘る音あさがおの咲く	東京都世田谷区	楊井 裕美	○
みずからの炎に灼かれ狂い咲くまぼろしならず秘の曼珠沙華	東京都杉並区	世戸 瑛子	○
燃えのこる夢もまだあり残されし命にうすく口紅を引く	東京都青梅市	荒井 千枝	○
名を知るにすぎねど住む地通過するたびその人を想う駅あり	名古屋市天白区	三好 ゆふ	○
疾風(はやて)のように牧羊犬は羊らを小屋へ戻して定位置に伏す	福岡市東区	松本 千恵乃	○
生まれきて好きも嫌いもなくわれは「わたし」と呼んで私を生きる	福岡市東区	松本 千恵乃	○
白鳥は遠く湖上に舞ひ下りて円きレンズの中に漂ふ	熊本市中央区	本多 和代	○
白鳥の群れ居る田の先「はやぶさ」がゆったり傾ぐ車輛基地へと	仙台市青葉区	高橋 義仁	○
安曇野にりんごの花の咲き初むるを一人見おりとメールの届く	川崎市麻生区	大和 嘉章	○
午前二時思いの丈の半分は余計なものでたぶん出来てる	鹿児島市	水田 まり	○
返信の携帯電話に降ろされし無人の駅はさくら菜の花	千葉市中央区	安井 三緒	○
気合い入れ戦場に散る戦士たち 突撃とう名の営業ありき	兵庫県新温泉町	西村 徹	○
〈彼岸荒れ〉の言葉教へしひとはいま四季悉く春にし給ふ	東京都江戸川区	大本 史乃	○

第23回与謝野晶子短歌文学賞
第20回山川登美子記念短歌大会

入選作品 今野寿美選

変わりゆく 季節を春と 言うのなら とどまり続ける 雪になろうか
見つからぬ星を見つけにゆく夜更け天文台への階長し
ただ鍵を手渡すために立っていた綿雪ちりりと頬に当たって
りんごより梨は大人と言う子らよゆっくりゆっくり大人になあれ
テニス部の君のボールが転がってくるから我はレフトを守る
戦場へ駆り出されれば大人だと少年兵は静かに語る

東京都品川区
北九州市八幡東区
大阪府岬町
兵庫県丹波市
大阪市北区
大分市

新井 恵 ○
王生 令子 ○
岡野 はるみ ○
中下 重美 ○
中井 スピカ ○
金澤 諒和 ○

作品	学校名	氏名
【高校生の部】		
授業中 外を見てると ふしぎだな しゃぼん玉を とばしたくなる	群馬県・共愛学園高等学校	宮崎 彩音
君のこと 忘れられずに 眠る夜 君は私を 忘れていないのに	香川県立善通寺第一高等学校	荒井 伽月
放課後に 君と消してる 黒板は どんなものより 大きく感じた	香川県立善通寺第一高等学校	藤坂 昂輝
試験前 夕日さしこむ 自習室 髪とめる君 手がとまる僕	香川県立善通寺第一高等学校	森本 悠人
ゴミ箱で 今日まで支えてきたじゃない 小さくなった 消しゴムの叫び	福井県立敦賀高等学校	大橋 智明
冬のころ 手をつなぐのは 寒いから 夏は祭りで 混んでいるから	大阪府・大阪教育大学附属高等学校池田校舎	龍野 晋
君と僕 たとえ見るもの 同じでも 見つめる先は 裏と対偶	大阪府・大阪教育大学附属高等学校池田校舎	山田 恵矢
深緑 見慣れたはずの 黒板が おめかしをする 卒業式の日	大阪府・大阪教育大学附属高等学校池田校舎	日野 詩音
悩み言う人間の話しいつも聞く犬は家族の近くに消える	京都府・大谷高等学校	金子 比比生
しあわせは家族で囲む食卓で豚ショウガ焼き食べているとき	京都府・大谷高等学校	河崎 耀平
乗りたいなバイクの横で真似をする自転車の僕前傾姿勢	京都府・大谷高等学校	安城 佳斗
出遅れたスタートダッシュ追いつくか見えぬテープと火薬の香り	佐賀県・早稲田大学系属早稲田佐賀高等学校	高井 麻衣
太陽が 降り注ぐ日の 寒い日の 映るわたしの 影も震えて	東京都・晃華学園中学校高等学校	片岡 海緒
ふと描いた ノートの端の 落描きが 真面目に描くより うまく描けてる	東京都・晃華学園中学校高等学校	川村 彩花
テスト中 共鳴しあう ペンの音 不安で私の手は止まる	東京都・晃華学園中学校高等学校	姫野 美咲
割りながら 心踊らす ぎょうざっ子 口いっぱい 幸せふくむ	静岡県立浜松湖南高等学校	中桐 有珠
いつも見る 空へ飛びたつ 鳥の名を いまだ知らずに 十七の朝	静岡県立浜松湖南高等学校	小野田 凌
「おかえり」と聞こえる母の一言で今日の出来事あふれ出ていく	静岡県立浜松湖南高等学校	寺田 春菜
放課後の凍える夜道で二人きり 冷える右手と 熱もつ左手	静岡県立浜松湖南高等学校	徳井 南咲
梅の花 静かにもえし 八十分 シャーペン走る 運命の日	静岡県立浜松湖南高等学校	栗原 美卯
正門で迎えてくれた 桜の木 最も明るい 最初の記憶	静岡県立浜松湖南高等学校	小原 聖矢
夕焼けに 右目を焦がし 行く鳥よ 私も乗せては くれないだろうか	静岡県立浜松湖南高等学校	近藤 青葉
「どこに行く？」君は笑って言うけれど私はこのままどこへも行けない	兵庫県立姫路南高等学校	名定 凜
寒いねと友とくつつき写真撮れば私たちもう三色団子	兵庫県立姫路南高等学校	久保 涼花
クリスマスカップルばかりの姫路駅ぼくは一人で散髪行こう	兵庫県立姫路南高等学校	上田 壱盛
こたつにて爪先触れる子猫あり 私もちよっと入れてください	愛知県立豊橋西高等学校	北川 順子
君はどの 私を好きに なるだろう 美容院への道 ゆらいでる	東京都・学習院女子高等科	渡邊 珠子
もこもこ膨らむ小鳥を眺めては マフラーニセンチずり上げる朝	東京都・学習院女子高等科	太田 幸
真っ暗の部屋で電話をかけてるの あなたがとなりで話してるよう	東京都・学習院女子高等科	高橋 ふたば
雪道に もぐらの小さな 穴がある のぞけば子どもの 冷凍みかん	東京都・学習院女子高等科	高村 有咲
四等分 なんて楽な 分け方だ 家族が増えて 気が付いたこと	東京都・学習院女子高等科	竹内 瑞穂
四等何もかも違うあなたが大好きで腕の組み方さえ真似をする	東京都・学習院女子高等科	榎園 琴音
増えていく街の灯(あかり)を見下ろして 下から聞こえる母の呼ぶ声	東京都・学習院女子高等科	北原 美月
画用紙と鉛筆いっぱいだけ持って、空と海とを描きにいきたい	東京都・学習院女子高等科	内田 美鈴
下駄箱を 開けた数だけ 月日経ち うめの花咲く 別れの季節	東京都・学習院女子高等科	河野 暖乃
全身の 筋肉痛を 持ち帰る グラデーシヨンの 空を眺めて	大阪府立三国丘高等学校	田北 萌華

マラソンのデッドポイント過ぎてからごほうびのように体は軽い
受験生私の不安地球ほど母の不安は木星級
図書館へギアチェンジしてペダル踏むけやき並木のこもれ日の坂
あえぎつつ歩(ほ)を進めゆくこの坂の帰りはきっと違った景色
冬の空豪雪のあとしずかなり一時間後にはスズメが鳴いてる
夕焼けをゆっくり観察してみると五色に染まる冬の午後
思い出と飛行機ぐもが重なって広がっていくとちょっぴりさびしい
夏の雨傘さす人の頭上にはすでに大きな虹かかりけり
夕空に月と金星最接近トルコの旗に似てかの国思わる
釣り上げしめばるの目には海の色はねる体に冬の色かな
カーテンの隙間を透る光達今日は何が起こりうるかな
大空の淡い匂いのそばにあるあの人はもう振り返らない
雨上がり木々にさしこむ日の光昨日の晴れと違う明るさ
ひらめきが 頭の中を駆けめぐり とんではねてはまたすぐ消えた
トントンとリズムをきざむ包丁に今年はずこちない音もまざって
鍬入れの休憩中にやって来る鳥の食事が終わるまで待つ
毎日をいりどって行くその色が運命の色でありますように
思い出は力になるよあの日見た大きなさくらの樹の映像も
どうしても伝えられない思いなら紙飛行機で飛ばしちゃおうか
風吹いて紙飛行機がゆらゆらと飛んでいくのを見ればいい日だ
氷点下フロントガラスを熱湯で溶かしていくのが私の楽しみ
いくつもの言葉を知ったはずなのに大事な時に黙ってしまう
曲流しイヤフォンつけて目を閉じる大切にしたい一人の時間
途中から書かなくなった絵日記はスマートフォンのことも知らない
年少さんお話沢山うれしいがどの子の目を見て聞いたらよいか
毎日は可愛いもので満ちているそれは九月の放課後のこと
気まぐれな君が隣にいる時にいつもより感じるココアの甘み
学校に行く時道で発見す蜜柑みみたいな実がなってる木
夢のなか君をさがして明日もまた僕のなかで君をさがす
空みあげ変わる雲ゆきながめれば心は何を思うというの
恋心気付いているのは周りだけいつ気付くのかとても気になる
つきたての白いお餅の温かさ慣れてくる頃またつきあがる
二年間あなたの背中追い続けやっと思つたあじさいの花
下校中友とわれとの自転車が猫の恋みて止まってる
青春は転がりかたが分からないだから楽しいラグビーも同じ
歩いてて楽器に足をぶついたらごめんなさいと楽器に謝る
外套の肩にかかれる革靴肩下がるたびするりと落ちて
うすい色うすい木葉にうすい空気冬の山にはうすいが多い
スマホでは簡単に繋がる私の電波学校では不安定な私の電波

静岡市立清水第七中学校
静岡市立清水第七中学校
静岡市立清水第七中学校
静岡市立清水第七中学校
米国・ワシントン日本語学校
米国・ワシントン日本語学校
埼玉県入間市立東金子中学校
東京都・白百合学園中学高等学校
東京都・白百合学園中学高等学校
東京都・白百合学園中学高等学校
仙台市立西山中学校
東京都・学習院女子中等科
東京都・学習院女子中等科
東京都・学習院女子中等科
東京都・学習院女子中等科
東京都・学習院女子中等科
東京都・学習院女子中等科
京都府福知山市立六人部中学校
宮城県名取市立第二中学校
宮城県名取市立第二中学校
宮城県名取市立第二中学校
愛知県・椛山女学園中学校
愛知県・椛山女学園中学校
東京都・星美学園中学校
大阪市長吉中学校
静岡県・静岡雙葉中学校
静岡県・静岡雙葉中学校
静岡県・静岡雙葉中学校
大阪市長吉六反中学校
福井県小浜市立小浜第二中学校
福井県小浜市立小浜第二中学校
山口県岩国市立川下中学校
山口県岩国市立川下中学校
大阪府・大阪桐蔭中学校
大阪府・大阪桐蔭中学校
大阪府・関西大学第一中学校
大阪府・関西大学第一中学校
東京都・学習院女子中等科
東京都・学習院女子中等科
岐阜県美濃加茂市立西中学校

水谷 梨花子
長澤 楓
行徳 玲
眞田 朋幸
ストーン クイン
黒見 さつき
菅野 彩花
中橋 彩未
有地 日菜子
小林 明日香
小野 倖汰
青木 はるか
村山 奈々花
高野 真理子
下田 浩子
小川 日嘉里
宗村 佳奈
中田 凧音
小原 早葵
小林 諒馬
横井 莉乃
大石 莉歌子
佐野 綾音
中井 望綾
福原 百茄
梶 彩芽
山梨 有芽
城之尾 晴香
原禰 文香
高田 浩志
三谷 菜穂
稲村 萌奈
戸川 沙月
金子 照由
正田 和也
吉川 結菜
野地 百華
秋山 千遥
吉田 楓

第23回与謝野晶子短歌文学賞
第20回山川登美子記念短歌大会

青春の短歌 入選作品

雪はらう私と君の目が合ったときトナカイのようで笑う幸せ
七歳のときも十四歳のときもあなたは変わらずやんちゃで優しい
トントンと手織りを習う冬休みいろんな色の糸を織ります
目の前で僕が叫んでも届かない同じ目をした波が呑み込む
車窓から時々見える蜜柑色病む日もあればときに癒しも
無花果の中にとどまるこの想いつか届ける届けるつもり
寒い冬犬の散歩の帰り道犬のくしゃみにあったかくなる
ドロシーの役を演じている時にしみじみと言うおうちがいちばん
月の下金星ちょこっと見えたとき習ったばかりの知識で会話

岐阜県美濃加茂市立西中学校
岐阜県美濃加茂市立西中学校
大阪府吹田市立青山台中学校
愛知県・名古屋女子大学中学校
兵庫県・西播朝鮮初中級学校
鹿児島市立谷山中学校
鹿児島市立谷山中学校
東京都・桜蔭中学校
東京都・星美学園中学校

尾石 歩霞
細川 美波
植永 迅
風間 七海
鄭 由梨
坂口 佳子
月野 颯人
花澤 萌子
福田 真湖